

ボランティアの指導を受けながら、真剣にタオル帽子を製作する生徒



タオル帽子 ぬくもり感じて

盛岡

がん患者やその家族のサポート活動をする岩手ホスピスの会（川守田裕司代表）は14日、盛岡市上ノ橋町の盛岡二高（小原貴人校長、生徒606人）でタオル帽子製作講習会を開き、参加者が患者に思いを寄せた。中山智恵さん（2年）は「思ったよりうまくできた。作った帽子が幅広い患者の役に立てばうれしい」とほほ笑んだ。

同校での講習会は今年で4回目。同会は、抗がん剤の影響で脱毛に悩むがん患者のため2008年にタオル帽子の製作活動を始めた。

岩手ホスピスの会 盛岡二高で製作講習会

家庭クラブ委員会の1、2年生ら25人が参加。同会のボランティア6人に指導を受けながら、真剣に作業した。フェイスタオルを二つ折りにし、両端を返し縫いで縫い進めた。その後、裾を5センチほど折り込んで縫い完成させた。

タオル帽子の製作活動を始めた。同会事務局長の吉島美樹子さん（59）は「直接的でなくても、がん患者を支援する方法があることを知ってほしい」と願いを込める。今回製作したタオル帽子は、同市永井の盛岡友愛病院に贈られる。

岩手日報2020年12月16日付

この記事・写真は岩手日報社許諾を得て転載しています。

岩手ホスピスの会許諾済。